

1. 研究の目的

社会環境はこの30年で大きく変化しており、これからも変化の激しい社会情勢が続いていく。その状況下の中で子どもたちに願うのは、夢や希望を抱き、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動しながら、いきいきと躍動する姿である。これを橘小の子どもたちに置き換えると、未知の課題や困難に出合った時に、立ち止まるのではなく、それまでに習得・獲得した知識・技能をフル活用して、自ら解決に向かおうとする姿と言える。思いや願いをもってどんなことにも主体的に関わることができるような橘っ子を目指したい。

2. 研究テーマの設定

**習得・獲得した知識・技能を活用して自分の考えがもてる子どもの育成
～ 子どもの主体性を引き出す授業づくりの工夫 ～**

今年度の研究テーマを「習得・獲得した知識・技能を活用して、『自分の考え』がもてる子どもの育成～子どもの主体性を引き出す授業づくりの工夫～」と定めた。昨年度の研究メインテーマを引き継ぎながら、子どもたちの主体性に焦点を当てて授業改善を目指していくこととした。昨年度の研究の成果として、思考力を発揮するための単元構想を工夫していく大切さを教師同士で共有することができた。単元構想を工夫することで、子どもたちの思いが高められ、「自分の考え」をもつことができるようになってきた。しかし一方で、授業に対して前向きになれず、「自分の考え」をもつことが難しい姿も見られた。そこで、子どもたち一人一人の「やりたい」「やってみたい」という気持ちを引き出し、自分事として主体的に多くのことに関わりながら、「自分の考え」をもつことにつながれると考えた。

子どもたち一人一人が、学校生活において主体的に取り組む姿勢を育めるように手立ての工夫を考えていく。そのためには、身近なロールモデルとして教師である私たちも、いろいろな物事に対して主体的に取り組むことを意識していきたい。

3. 大切にしたい子ども観

子どもたち全員を「能動的学習者」として捉え、教師が「教える」ではなく、子どもが「学ぶ」ことができるようにしていく。そのために、子どもたちの「思い」「意欲」「力」を引き出せるように、教師として「認める」「見守る」「助言する」「環境を整える」ことを意識していく。

4. 実際の取り組み

【2年生】国語科：「話したい！聞きたい！」という思いを引き出した実践

国語科「みんなで話をつなげよう そうだんにのってください」では、子どもたちの身近な相談事をお互いに話し合うことで、「話す」「聞く」のスキルの習得だけでなく、子どもたち同士の関係づくりにもつながっていた。教科の学びを生活場面で発揮できるようにすることで、主体的に学習に取り組む態度が養われた。

【専科】音楽科：他教科（総合的な学習の時間）と関連させた実践

音楽科「言葉でリズムアンサンブル」では、リズムの重ね方の組み合わせや仕組みを使って音楽をつくっていく上で、総合的な学習の時間で活動している「おまつり」に因んだ言葉の中から選ぶこととした。他教科と関連させることにより、子どもたちが意欲をもって学習に取り組むことができた。